

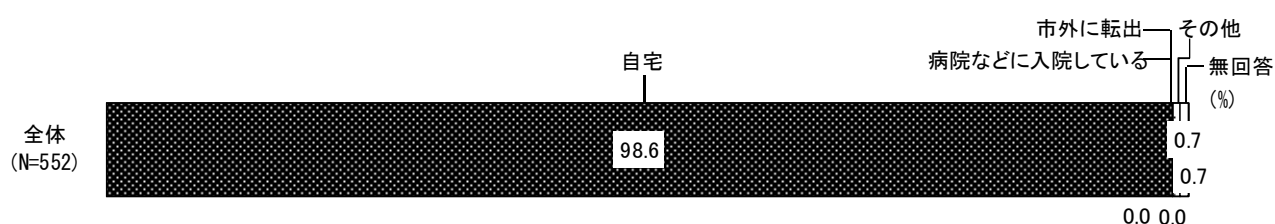
第1章 介護保険第2号被保険者調査

1 基本属性

(1) 現在の生活場所 (F 1)

現在の生活場所は、「自宅」が98.6%、「その他」が0.7%となっている。(図表1-1-1)

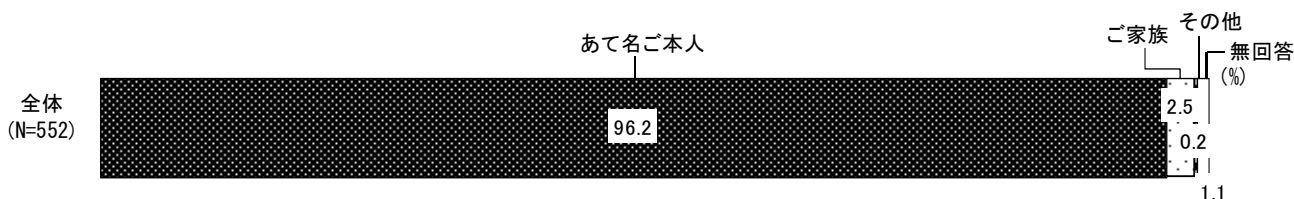
図表1-1-1 現在の生活場所 (全体)



(2) 調査票の記入者 (F 2)

調査票の記入者は、「あて名ご本人」が96.2%、「ご家族」が2.5%となっている。(図表1-1-2)

図表1-1-2 調査票の記入者 (全体)



(3) 性別 (F 3)

性別は、「男性」が52.9%、「女性」が47.1%となっている。(図表1-1-3)

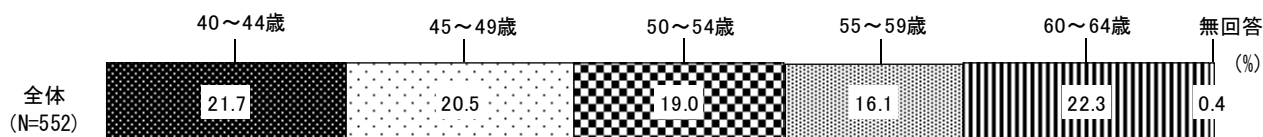
図表1-1-3 性別 (全体)



(4) 年齢 (F 4)

年齢は、「40～44歳」が21.7%、「45～49歳」20.5%、「50～54歳」19.0%、「55～59歳」16.1%、「60～64歳」22.3%となっている。(図表1-1-4)

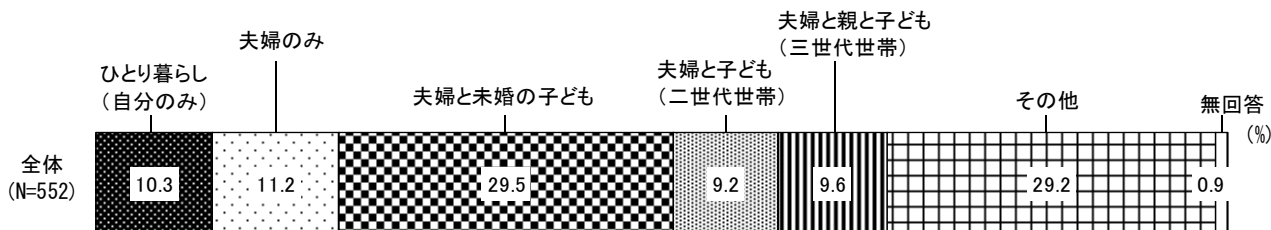
図表1-1-4 年齢 (全体)



(5) 世帯状況 (F 5)

世帯状況は、「夫婦と未婚の子ども (29.5%)」が最も多く、「その他 (29.2%)」、「夫婦のみ (11.2%)」、「ひとり暮らし (自分のみ) (10.3%)」が続いている。(図表1-1-5)

図表1-1-5 世帯状況 (全体)



(6) 居住地域 (F 6)

居住地域は、「第一地区」が28.3%、「第二地区」が13.2%、「第三地区」が17.2%、「第四地区」が14.1%、「第五地区」が9.4%、「第六地区」が16.1%となっている。(図表1-1-6)

図表1-1-6 居住地域 (全体)



(7) 居住形態 (F7)

居住形態は、「持ち家の一戸建て (67.0%)」が最も多く、「持ち家の集合住宅 (15.9%)」、「民間賃貸の集合住宅 (9.6%)」が続いている。(図表1-1-7)

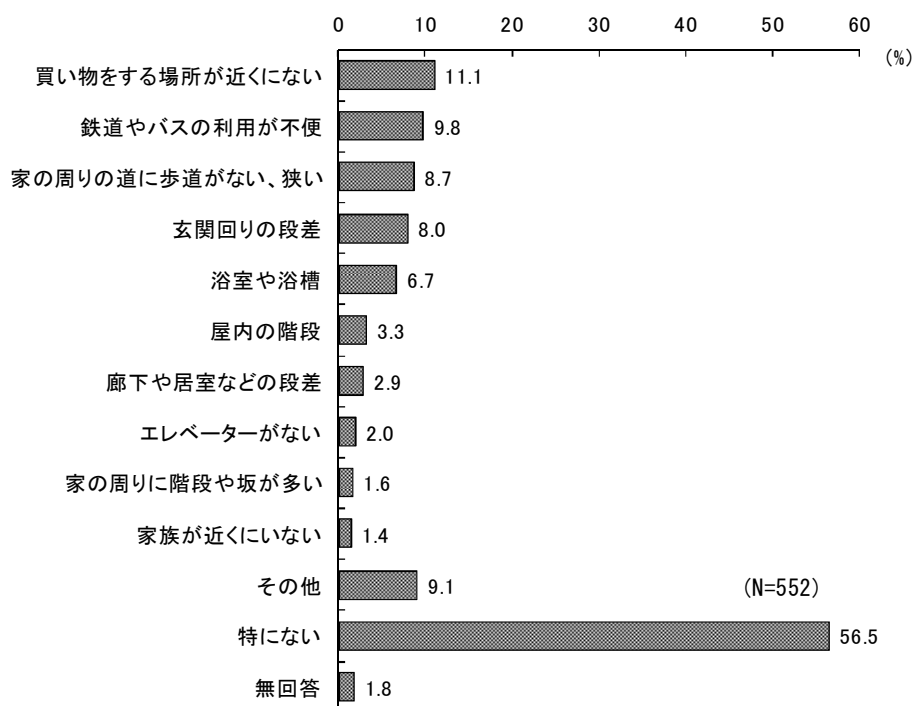
図表1-1-7 居住形態 (全体)



(8) 住まいや住環境で困っていること (F8)

住まいや住環境で困っていることは、「特にない (56.5%)」が過半数を占めている。困っていることでは、「買い物をする場所が近くにない (11.1%)」が最も多く、「鉄道やバスの利用が不便 (9.8%)」、「家の周りの道に歩道がない、狭い (8.7%)」が続いている。(図表1-1-8)

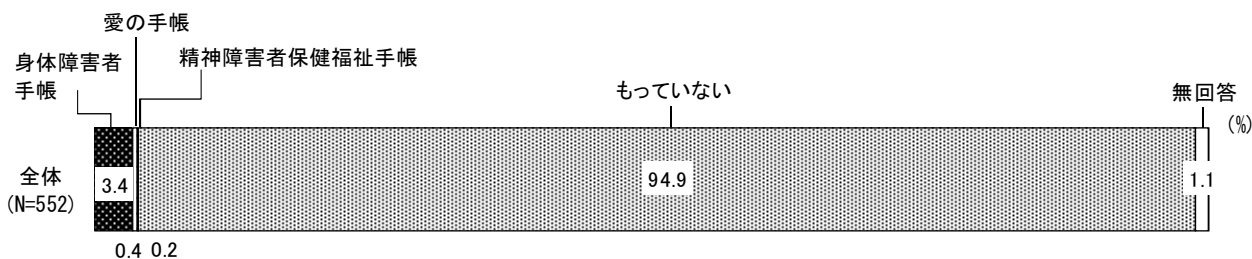
図表1-1-8 住まいや住環境で困っていること (全体：複数回答)



(9) 持っている障害者手帳の種類 (F9)

障害者手帳は、「もっていない」が94.9%となっている。持っている手帳の種類は、「身体障害者手帳」が3.4%、「愛の手帳」が0.4%、「精神障害者保健福祉手帳」が0.2%となっている。(図表1-1-9)

図表1-1-9 持っている障害者手帳の種類 (全体)



2 健康づくりの取組みについて

(1) 健康状態 (問1)

健康状態は、「とても健康である (17.0%)」と「まあまあ健康である (71.6%)」を合計すると88.6%が《健康である》と答えている。合計すると《健康でない》は11.1%である。

性・年代別にみると、各年代で「まあまあ健康である」が多いが、男性では年代が上がるに従い低率になっている。女性は、40歳代、50歳代で「とても健康である」が2割近くを占めている。男女ともに「あまり健康でない」、「健康でない」は、年代が上がるに従い高くなっている。(図表1-2-1)

図表1-2-1 健康状態 (全体、性・年代別)

		健康状態 (%)				
		とても健康である	まあまあ健康である	あまり健康でない	健康でない	無回答
全	体 (N= 552)	17.0	71.6	8.2	2.9	0.4
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	18.6	75.2	6.2	0.0	0.0
	男性-50歳代 (n= 98)	14.3	74.5	7.1	3.1	1.0
	男性-60歳代 (n= 81)	16.0	67.9	9.9	6.2	0.0
	女性-40歳代 (n= 120)	19.2	73.3	5.8	1.7	0.0
	女性-50歳代 (n= 96)	19.8	63.5	11.5	4.2	1.0
	女性-60歳代 (n= 42)	9.5	73.8	11.9	4.8	0.0

(2) 健康や介護予防のために気をつけていること (問2)

健康や介護予防のために気をつけていることは、「定期的に健康診断を受けている (51.8%)」が最も多く、「口の中を清潔にしている (歯磨き、うがいなど) (43.5%)」、「ウォーキングや体操など、定期的に運動をしている (31.5%)」、「規則的な生活を心がけている (夜更かしをしないなど) (30.4%)」、「休養や睡眠を十分にとっている (28.1%)」が続いている。

性・年代別にみると、男女ともに「定期的に健康診断を受けている」が多いが、男性ではどの年代でも過半数を大きく超えている。女性では11項目中3項目で年代が上がるに従い高率になっているが、男性では11項目中7項目で、年代が上がるに従い高くなっている。(図表1-2-2)

図表1-2-2 健康や介護予防のために気をつけていること
(全体、性・年代別：複数回答)

(%)

	定期的に健康診断を受けている	口の中を清潔にしている (歯磨き、うがいなど)	ウォーキングや体操など、定期的に運動をしている	規則的な生活を心がけている (夜更かしをしないなど)	休養や睡眠を十分にとっている	栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事をしている	気持ちをできるかぎり明るく保つ	かかりつけの医師(主治医)に定期的に診てもらっている	たばこをやめた、または本数を減らしている	飲酒回数や飲酒量を減らしている	パズルや計算作業など、脳のトレーニングに取り組んでいる	その他	特にな	無回答
全 体 (N= 552)	51.8	43.5	31.5	30.4	28.1	26.8	24.5	19.9	13.0	11.1	7.1	3.1	11.6	0.4
性・年代別														
男性-40歳代 (n= 113)	52.2	36.3	23.9	17.7	17.7	18.6	16.8	14.2	18.6	14.2	3.5	1.8	16.8	0.0
男性-50歳代 (n= 98)	54.1	33.7	36.7	23.5	26.5	20.4	17.3	18.4	20.4	12.2	6.1	3.1	19.4	0.0
男性-60歳代 (n= 81)	53.1	43.2	34.6	35.8	46.9	25.9	23.5	34.6	25.9	18.5	8.6	1.2	9.9	0.0
女性-40歳代 (n= 120)	50.8	47.5	25.0	40.8	25.0	30.8	29.2	10.8	3.3	9.2	6.7	3.3	6.7	0.0
女性-50歳代 (n= 96)	55.2	51.0	37.5	29.2	25.0	36.5	32.3	19.8	4.2	6.3	11.5	6.3	7.3	1.0
女性-60歳代 (n= 42)	38.1	59.5	38.1	42.9	38.1	33.3	31.0	35.7	4.8	2.4	7.1	2.4	7.1	2.4

(3) 健康診断受診の有無 (問3)

この1年間の健康診断受診の有無は、「受けた」が79.9%、「受けていない」が19.7%となっている。

性・年代別にみると、男性では「受けた」は8割を超えているが、女性では7割台にとどまっている。特に女性60歳代で「受けていない (28.6%)」が3割近くとなっている。(図表1-2-3)

図表1-2-3 健康診断受診の有無 (全体、性・年代別)

		(%)		
		受けた	受けていない	無回答
全 体 (N= 552)		79.9	19.7	0.4
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	82.3	15.9	1.8
	男性-50歳代 (n= 98)	86.7	13.3	0.0
	男性-60歳代 (n= 81)	82.7	17.3	0.0
	女性-40歳代 (n= 120)	75.8	24.2	0.0
	女性-50歳代 (n= 96)	76.0	24.0	0.0
	女性-60歳代 (n= 42)	71.4	28.6	0.0

(4) 受けたことがある保健指導 (問4)

保健指導については、「保健指導を受けたことはない (46.2%)」が4割台となっている。受けたことでは、「再検査または精密検査の受診の勧め (14.1%)」、「日常生活面での指導 (13.9%)」が1割を超えている。

性・年代別にみると、女性で「保健指導を受けたことがない」が半数を超え、特に女性の40歳代、50歳代で6割近くとなっている。男性では「保健指導を受けたことがない」は4割に満たない。受けたことでは、「運動指導」と「栄養指導」は男性の年代が上がるに従って低率になっている。(図表1-2-4)

図表1-2-4 受けたことがある保健指導 (全体、性・年代別：複数回答)

		(%)								
		検査の受診の勧め	再検査または精密検査の勧め	日常生活面での指導	運動指導	栄養指導	治療のための受診	健康情報提供に関する	保健指導を受けたことはない	無回答
全 体 (N= 552)		14.1	13.9	9.8	6.0	4.9	4.0	46.2	15.2	
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	18.6	20.4	16.8	11.5	4.4	9.7	36.3	7.1	
	男性-50歳代 (n= 98)	14.3	24.5	14.3	7.1	5.1	4.1	38.8	12.2	
	男性-60歳代 (n= 81)	19.8	16.0	12.3	6.2	3.7	0.0	35.8	22.2	
	女性-40歳代 (n= 120)	15.0	7.5	5.8	3.3	1.7	2.5	58.3	15.0	
	女性-50歳代 (n= 96)	9.4	4.2	2.1	3.1	8.3	4.2	58.3	16.7	
	女性-60歳代 (n= 42)	0.0	9.5	4.8	2.4	9.5	0.0	50.0	23.8	

(5) 保健指導の遵守状況 (問4-1)

保健指導を受けたことがある人に、その指導に従ったかたずねたところ、「従った(51.2%)」は5割強、「一部従った(28.6%)」は3割弱、「まったく従わなかった」は16.4%となっている。

性別でみると、女性で「従った(61.2%)」が6割を超え高くなっている。

年代別にみると、40歳代で「従った(46.9%)」が若干低くなっている。(図表1-2-5)

図表1-2-5 保健指導の遵守状況 (全体、性別、年代別)

<保健指導を受けたことがあると回答した人>

		(%)			
		従った	一部従った	まったく従わなかった	無回答
全	体 (n= 213)	51.2	28.6	16.4	3.8
性別	男性 (n= 146)	46.6	29.5	19.2	4.8
	女性 (n= 67)	61.2	26.9	10.4	1.5
年代別	40歳代 (n= 96)	46.9	31.3	17.7	4.2
	50歳代 (n= 72)	55.6	27.8	15.3	1.4
	60歳代 (n= 45)	53.3	24.4	15.6	6.7

(6) 保健指導に従わなかった理由 (問4-2)

保健指導を受けたことがあり、その指導に「一部従った」、「まったく従わなかった」と回答した人に、指導に従わなかった理由をたずねた。「実行するのが負担だった(49.0%)」が最も多く、「特に自分には必要ない内容だと思った(24.0%)」が続いている。

性別でみると、男性で総じて割合が高くなっている。(図表1-2-6)

図表1-2-6 保健指導に従わなかった理由 (全体、性別：複数回答)

<保健指導に「一部従った」、「まったく従わなかった」と回答した人>

		(%)					
		実行するのが負担だった	言われたことがよくわか	具体的なからうすればよい	特に自分には必要ない内容だ	その他	無回答
全	体 (n= 96)	49.0	2.1	9.4	24.0	18.8	2.1
性別	男性 (n= 71)	50.7	2.8	11.3	28.2	12.7	0.0
	女性 (n= 25)	44.0	0.0	4.0	12.0	36.0	8.0

(7) 外出頻度 (問5)

日ごろの外出頻度は、「ほぼ毎日 (84.8%)」が8割を大きく超えている。「一日おき程度」が5.4%、「2～3日おき程度」が5.6%となっている。(図表1-2-7)

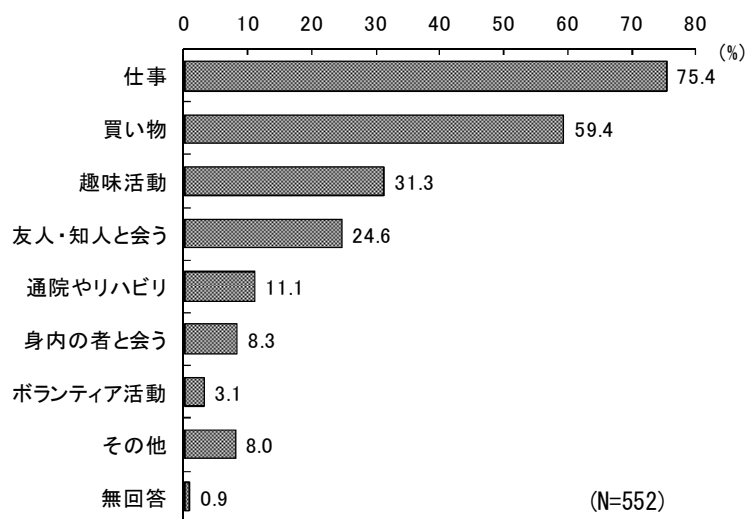
図表1-2-7 外出頻度 (全体)



(8) 外出の主な目的 (問6)

外出の主な目的は、「仕事(75.4%)」が最も多く、「買い物(59.4%)」、「趣味活動(31.3%)」、「友人・知人と会う (24.6%)」が続いている。(図表1-2-8)

図表1-2-8 外出の主な目的 (全体：複数回答)



(9) 現在かかっている病気 (問7)

罹患状況は「特にない」が37.3%で3分の1強を占めている。かかっている病気では、「腰痛症 (16.7%)」、「高血圧症 (16.3%)」「肩こり症 (13.4%)」の順で続いている。

性・年代別にみると、男性では「腰痛症」、「高血圧症」は年代が上がるに従い高率になっている。女性では、「脂質異常症 (高コレステロール血症など)」は年代が上がるに従い高率になっているが、逆に、「肩こり症」は年代が上がるに従い低率になっている。(図表1-2-9)

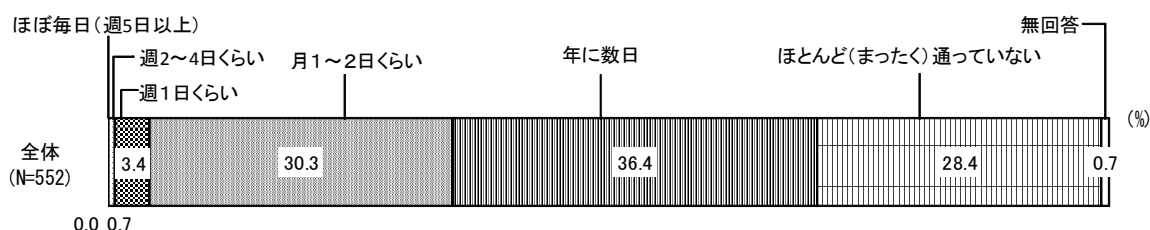
図表1-2-9 現在かかっている病気 (全体、性・年代別：複数回答) (%)

	腰痛症	高血圧症	肩こり症	脂質異常症 (高コレステロール血症など)	歯の病気 (歯周病など)	目の病気 (白内障・緑内障など)	糖尿病	消化器の病気 (胃炎・肝炎など)	呼吸器の病気 (ぜん息など)	耳や鼻の病気 (難聴など)	関節症・リウマチ	狭心症・心筋梗塞	泌尿器の病気 (腎臓病・前立腺肥大など)	脳卒中 (脳出血・脳梗塞など)	骨折・外傷	動脈硬化症	骨粗しょう症	認知症	その他	特にない	無回答
全体 (N= 552)	16.7	16.3	13.4	11.6	9.6	6.9	6.3	6.0	4.2	3.4	2.4	2.0	1.4	1.1	0.7	0.5	0.4	0.0	11.4	37.3	2.7
男性-40歳代 (n= 113)	15.0	11.5	7.1	9.7	6.2	1.8	5.3	3.5	1.8	1.8	0.0	0.9	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	8.0	47.8	4.4
男性-50歳代 (n= 98)	17.3	23.5	9.2	17.3	13.3	11.2	6.1	3.1	4.1	6.1	1.0	3.1	3.1	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	11.2	31.6	2.0
男性-60歳代 (n= 81)	23.5	37.0	9.9	13.6	11.1	9.9	18.5	12.3	2.5	4.9	0.0	7.4	4.9	1.2	2.5	2.5	0.0	0.0	8.6	27.2	1.2
女性-40歳代 (n= 120)	16.7	4.2	21.7	2.5	7.5	3.3	0.8	6.7	2.5	3.3	4.2	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.8	0.0	12.5	41.7	2.5
女性-50歳代 (n= 96)	12.5	14.6	19.8	13.5	5.2	9.4	3.1	6.3	10.4	2.1	7.3	0.0	1.0	2.1	1.0	0.0	1.0	0.0	14.6	40.6	2.1
女性-60歳代 (n= 42)	14.3	11.9	9.5	21.4	23.8	9.5	9.5	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	23.8	4.8

(10) 通院の状況 (問8)

通院の状況は、「年に数日 (36.4%)」、「月1～2日くらい (30.3%)」が3割台となっている。「ほとんど(まったく)通っていない (28.4%)」は3割弱となっている。(図表1-2-10)

図表1-2-10 通院の状況 (全体)



3 生活習慣について

(1) 生活習慣についての考え (問9)

生活習慣についての考えは、「生活習慣の改善が必要だとは思いますが、容易には変えられない (36.6%)」、「生活習慣に特に問題はない (34.4%)」がともに3分の1強を占め多くなっている。次いで、「生活習慣の改善が必要だと思ひ、すでに取組み・行動を始めている (14.5%)」となっている。

性・年代別にみると、「生活習慣の改善が必要だとは思いますが、容易には変えられない」は男女ともに年代が上がるに従い低率になっており、逆に、「生活習慣の改善が必要だと思ひ、すでに取組み・行動を始めている」は年代が上がるに従い、高率になる傾向がみられる。また、「生活習慣に特に問題はない」は男性で年代が上がるに従い、高率になっている。(図表1-3-1)

図表1-3-1 生活習慣についての考え (全体、性・年代別)

		生活習慣に特に問題はない	生活習慣の改善が必要だとは思わない	生活習慣の改善が必要だとは思	生活習慣の改善が必要だと思ひ、すでに取組み・行動を始めている	生活習慣については関心がない	無回答	
全	体 (N= 552)	34.4	5.4	36.6	4.3	14.5	3.4	1.3
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	24.8	4.4	44.2	7.1	15.0	3.5	0.9
	男性-50歳代 (n= 98)	33.7	6.1	35.7	2.0	15.3	5.1	2.0
	男性-60歳代 (n= 81)	38.3	7.4	29.6	1.2	18.5	3.7	1.2
	女性-40歳代 (n= 120)	32.5	6.7	43.3	5.0	8.3	3.3	0.8
	女性-50歳代 (n= 96)	44.8	4.2	31.3	4.2	14.6	1.0	0.0
	女性-60歳代 (n= 42)	35.7	2.4	23.8	7.1	21.4	4.8	4.8

(2) 食生活を改善するために必要なこと (問10)

食生活を改善するために必要なことは、「食生活を改善するための知識 (48.2%)」、「楽しみながら取り組めること (45.3%)」がともに半数近くを占めている。次いで、「結果が出ること (32.8%)」、「家族の協力・助け (食事を作るなど) (31.2%)」となっている。

性・年代別にみると、多くの項目で男性の年代が上がるに従い、低率になる傾向がみられる。(図表1-3-2)

図表1-3-2 食生活を改善するために必要なこと (全体、性・年代別：複数回答)

		食生活改善のための知識	楽しみながら取り組めること	結果が出ること	家族の協力・助け(食事を作るなど)	適切な情報が得られること	短時間で調理ができること	栄養に配慮した食事をつくる技術・コツ	栄養に配慮した食事を提供してくれる店があること	管理栄養士など専門家のアドバイス	一緒に取り組む仲間	誘惑がなくなること	テレビ番組や広告などでの過度の刺激や	その他	無回答
全	体 (N= 552)	48.2	45.3	32.8	31.2	25.0	22.6	21.2	10.0	7.4	7.1	2.9	5.1	4.2	
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	55.8	42.5	34.5	46.9	27.4	12.4	15.9	8.8	8.0	11.5	2.7	4.4	2.7	
	男性-50歳代 (n= 98)	43.9	37.8	31.6	42.9	20.4	10.2	17.3	9.2	6.1	7.1	2.0	6.1	6.1	
	男性-60歳代 (n= 81)	42.0	35.8	27.2	30.9	23.5	11.1	17.3	9.9	8.6	7.4	2.5	6.2	12.3	
	女性-40歳代 (n= 120)	44.2	50.0	36.7	22.5	25.8	34.2	23.3	13.3	10.0	7.5	4.2	4.2	1.7	
	女性-50歳代 (n= 96)	55.2	59.4	34.4	20.8	21.9	37.5	26.0	5.2	6.3	3.1	3.1	5.2	1.0	
	女性-60歳代 (n= 42)	47.6	45.2	28.6	7.1	38.1	35.7	35.7	14.3	2.4	2.4	2.4	4.8	2.4	

(3) 運動習慣を改善するために必要なこと (問 11)

運動習慣を改善するために必要なことは、「楽しみながら取り組めること (76.4%)」が最も多く、「簡単にできること (58.3%)」、「結果がでること (40.6%)」が続いている。

性・年代別にみると、多くの項目で男性の年代が上がるに従い、低率になる傾向がみられる。その中で、男性の50歳代と60歳代で「楽しみながら取り組めること」が低いことが目につく。(図表1-3-3)

図表 1-3-3 運動習慣を改善するために必要なこと (全体、性・年代別：複数回答)

		楽しみながら取り組めること	簡単にできること	結果がでること	体を動かしたり、運動する場所	一緒に取り組む仲間	スポーツクラブに通うための経費	体づくりや運動に関する知識	運動指導士など専門家のアドバイス	家族の協力・助け	運動などの技術	その他	無回答
全	体 (N= 552)	76.4	58.3	40.6	27.0	20.5	20.3	16.8	13.9	8.2	3.4	5.6	1.8
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	81.4	51.3	41.6	30.1	20.4	18.6	17.7	13.3	8.8	1.8	2.7	0.0
	男性-50歳代 (n= 98)	66.3	46.9	37.8	29.6	17.3	19.4	13.3	8.2	10.2	7.1	8.2	3.1
	男性-60歳代 (n= 81)	66.7	53.1	34.6	25.9	16.0	9.9	18.5	12.3	7.4	2.5	4.9	4.9
	女性-40歳代 (n= 120)	78.3	66.7	50.0	22.5	20.8	31.7	15.8	15.0	9.2	4.2	8.3	1.7
	女性-50歳代 (n= 96)	84.4	67.7	40.6	25.0	22.9	22.9	16.7	14.6	7.3	1.0	5.2	0.0
	女性-60歳代 (n= 42)	81.0	69.0	31.0	31.0	26.2	9.5	23.8	26.2	0.0	4.8	2.4	2.4

(4) 心の健康のために必要なこと (問 12)

心の健康のために必要なことについては、「個人が悩みやストレスをためないような工夫 (82.4%)」が8割を超え最も多く、「地域でのスポーツ、趣味のサークルなどのストレス発散の場への参加 (30.6%)」、「こころの健康に対する正しい情報の提供 (25.5%)」が続いている。

性・年代別にみると、多くの項目で男女ともに年代が上がるに従い、低率になる傾向がみられる。逆に、「地域でのスポーツ、趣味のサークルなどのストレス発散の場への参加」は、女性の年代が上がるに従い高率になっているのが特徴である。(図表1-3-4)

図表1-3-4 心の健康のために必要なこと (全体、性・年代別：複数回答)

		(%)											
		個人が悩みやストレスをためないような工夫	地域でのスポーツ、趣味のサークルなどのストレス発散の場への参加	こころの健康に対する正しい情報の提供	学校や職場におけるこころの健康づくりの推進	地域での心の健康相談などが気軽にできる場の充実	学校や職場などで心の健康づくりのアドバイスを伝える人材育成	識や診療能力の向上	かかりつけ医のこころの健康づくりに対する知識	うつ予防や自殺防止に関する普及啓発	その他	わからない	無回答
全	体 (N= 552)	82.4	30.6	25.5	22.5	21.0	14.7	10.9	10.7	3.6	4.3	1.6	
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	88.5	31.9	20.4	29.2	23.9	16.8	8.8	15.9	2.7	5.3	0.0	
	男性-50歳代 (n= 98)	79.6	27.6	19.4	22.4	12.2	13.3	4.1	12.2	1.0	7.1	3.1	
	男性-60歳代 (n= 81)	75.3	28.4	29.6	17.3	14.8	6.2	7.4	7.4	4.9	6.2	3.7	
	女性-40歳代 (n= 120)	82.5	24.2	26.7	21.7	23.3	17.5	18.3	10.0	3.3	3.3	0.8	
	女性-50歳代 (n= 96)	82.3	34.4	31.3	25.0	27.1	16.7	14.6	10.4	6.3	2.1	0.0	
	女性-60歳代 (n= 42)	85.7	45.2	31.0	9.5	23.8	16.7	7.1	2.4	4.8	0.0	4.8	

4 認知症について

(1) 認知症について知っていること (問 13)

認知症について知っていることは、「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること (85.3%)」、「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること (84.1%)」、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所が分からなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること (81.5%)」が8割を超えている。

性・年代別にみると、多くの項目で男女ともにほぼ同傾向となっているが、「認知症の抑制には、食生活や生活習慣などで改善の効果があると認められていること」は男女ともに年代が上がるに従い、高率になる傾向がみられ、特に女性 60 歳代では6割を超えている。(図表 1-4-1)

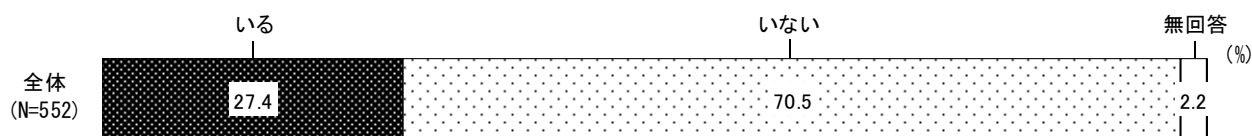
図表 1-4-1 認知症について知っていること (全体、性・年代別：複数回答)

		(%)							
		に認 でも 起は こり うる もの で 原因 疾患 とし 、誰	も認 知症 は高 齢期 だけ で なく 、若 い世 代で	が妄 想、 幻覚 、徘 徊な ど 個人 差の ある 症状 、場	所が 分 か ら な い 、記 憶障 害や 時間 ・場	行認 を知 遅症 らせ 早期 に発 見が でき ること により 、進	こと で改 善の 抑制 効果 には あ 、食 生活 や 生活 習慣 な	ど れ も 知 ら な か つ た	無 回 答
全	体 (N= 552)	85.3	84.1	81.5	68.5	38.0	2.0	1.3	
性・ 年代 別	男性-40歳代 (n= 113)	80.5	76.1	75.2	59.3	29.2	5.3	0.9	
	男性-50歳代 (n= 98)	78.6	75.5	79.6	64.3	33.7	2.0	4.1	
	男性-60歳代 (n= 81)	86.4	79.0	81.5	67.9	34.6	1.2	2.5	
	女性-40歳代 (n= 120)	89.2	90.0	80.0	66.7	35.8	0.8	0.0	
	女性-50歳代 (n= 96)	92.7	95.8	89.6	81.3	47.9	1.0	0.0	
	女性-60歳代 (n= 42)	83.3	90.5	88.1	78.6	61.9	0.0	0.0	

(2) 家族や親族に「認知症」と診断された人がいるか (問 14)

家族や親族に「認知症」と診断された人がいるかについては、「いる」が27.4%、「いない」は70.5%となっている。(図表1-4-2)

図表1-4-2 家族や親族に「認知症」と診断された人がいるか (全体)



(3) 認知症になった時のために準備しておきたいこと (問 15)

認知症になった時のために準備しておきたいことは、「医療や介護について、希望を家族や周りの人に伝える (50.5%)」が最も多く、「信頼できるかかりつけの医師を見つける (38.8%)」、「自分に代わって意思決定してくれる人を決める (32.6%)」、「医療や介護について、希望を書き記す (32.1%)」が続いている。

性・年代別にみると、女性では年代によって若干のばらつきがみられる。「特にない」は男性の各年代で2割を超えているのが特徴である。(図表1-4-3)

図表1-4-3 認知症になった時のために準備しておきたいこと (全体、性・年代別：複数回答)

		家族や周りの介護の人について伝える、希望を家	見つけられるかかりつけの医師を	信頼できるかかりつけの医師を	自分で代わって意思決定してく	自分に代わって意思決定してく	き医療や介護について、希望を書	決めるの遺産をどう処分するかを	その他	特にない	無回答
全	体 (N= 552)	50.5	38.8	32.6	32.1	23.2	3.6	15.6	1.8		
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	44.2	37.2	32.7	29.2	25.7	2.7	21.2	0.0		
	男性-50歳代 (n= 98)	44.9	32.7	25.5	25.5	28.6	1.0	20.4	2.0		
	男性-60歳代 (n= 81)	44.4	32.1	38.3	30.9	24.7	2.5	21.0	4.9		
	女性-40歳代 (n= 120)	56.7	47.5	30.8	40.0	15.0	7.5	10.8	0.8		
	女性-50歳代 (n= 96)	62.5	43.8	38.5	27.1	20.8	2.1	8.3	1.0		
	女性-60歳代 (n= 42)	50.0	33.3	28.6	47.6	28.6	7.1	9.5	2.4		

(4) 認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (問16)

①認知症サポーターささえ隊養成講座

認知症サポーターささえ隊養成講座については、「知らない (71.7%)」が約7割となっている。「参加したことがある」が1.8%、「現在参加している」が0.0%であり、「知っているが参加したことがない」が16.5%、「参加したくない」が7.4%となっている。

性・年代別にみると、いずれの性・年代も「知らない」が最も多いが、年代が上がるに従い低率になる傾向がみられる。逆に、「知っているが参加したことがない」は、年代が上がるに従い高率になっている。「参加したくない」は男性で年代が上がるに従い高率になり、女性で年代が上がるに従い低率になっている。「参加したことがある」は女性で年代が上がるに従いわずかながら高率になっている。(図表1-4-4-①)

図表1-4-4-① 認知症サポーターささえ隊養成講座への参加・認知状況
(全体、性・年代別)

		(%)					
		参加したことがある	現在参加している	知っているが参加したことがない	知らない	参加したくない	無回答
全体 (N= 552)		1.8	0.0	16.5	71.7	7.4	2.5
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	1.8	0.0	8.0	78.8	8.8	2.7
	男性-50歳代 (n= 98)	1.0	0.0	9.2	76.5	10.2	3.1
	男性-60歳代 (n= 81)	1.2	0.0	18.5	63.0	12.3	4.9
	女性-40歳代 (n= 120)	0.8	0.0	15.0	76.7	5.8	1.7
	女性-50歳代 (n= 96)	2.1	0.0	26.0	67.7	4.2	0.0
	女性-60歳代 (n= 42)	7.1	0.0	35.7	54.8	0.0	2.4

②認知症に関する講演会やシンポジウム

認知症に関する講演会やシンポジウムについては、「知らない (61.6%)」が約6割となっている。「参加したことがある」が2.7%、「現在参加している」が0.0%であり、「知っているが参加したことがない」が25.5%、「参加したくない」が7.6%となっている。

性・年代別にみると、いずれの性・年代も「知らない」が最も多いが、年代が上がるに従い低率になる傾向がみられる。逆に、「参加したくない」は男性で年代が上がるに従い高率になり、女性で年代が上がるに従い低率になっている。「参加したことがある」は女性で年代が上がるに従いわずかながら高率になっている。(図表1-4-4-②)

図表1-4-4-② 認知症に関する講演会やシンポジウムへの参加・認知状況
(全体、性・年代別)

(%)

		参加したことがある	現在参加している	知っているが参加したことがない	知らない	参加したくない	無回答
全	体 (N= 552)	2.7	0.0	25.5	61.6	7.6	2.5
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	0.0	0.0	15.0	72.6	8.8	3.5
	男性-50歳代 (n= 98)	3.1	0.0	14.3	70.4	10.2	2.0
	男性-60歳代 (n= 81)	1.2	0.0	32.1	49.4	13.6	3.7
	女性-40歳代 (n= 120)	2.5	0.0	20.0	70.0	5.8	1.7
	女性-50歳代 (n= 96)	5.2	0.0	40.6	50.0	4.2	0.0
	女性-60歳代 (n= 42)	7.1	0.0	47.6	40.5	0.0	4.8

(5) 認知症になっても住み慣れた家で暮らし続けたいか (問 17)

認知症になっても住み慣れた家で暮らし続けたいかについては、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい (10.7%)」が約1割、「できることなら住み慣れた家で暮らし続けたい (44.4%)」の4割強を合計すると過半数が《住み慣れた家》を選択している。「適切な施設があれば入所したい (31.3%)」は約3割となっている。

性・年代別にみると、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」は男性で年代が上がるに従い高率になるが、女性は低率になっている。女性では、「適切な施設があれば入所したい」が35%~43%程度で男性より高い。(図表1-4-5)

図表1-4-5 認知症になっても住み慣れた家で暮らし続けたいか (全体、性・年代別)

		(%)				
		し ど う し て も 住 み 慣 れ た 家 で 暮 ら し 続 け たい	で き る こ と な ら ば 住 み 慣 れ た 家	適 切 な 施 設 が あ れ ば 入 所 し たい	わ か ら な い	無 回 答
全	体 (N= 552)	10.7	44.4	31.3	12.0	1.6
性・ 年代別	男 性 -40 歳 代 (n= 113)	12.4	46.0	24.8	15.9	0.9
	男 性 -50 歳 代 (n= 98)	16.3	43.9	27.6	11.2	1.0
	男 性 -60 歳 代 (n= 81)	17.3	39.5	29.6	8.6	4.9
	女 性 -40 歳 代 (n= 120)	7.5	45.8	35.8	10.0	0.8
	女 性 -50 歳 代 (n= 96)	4.2	45.8	34.4	14.6	1.0
	女 性 -60 歳 代 (n= 42)	2.4	42.9	42.9	9.5	2.4

(6) 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (問18)

認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なことは、「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実 (75.7%)」が最も多く、「認知症対応型通所介護 (認知症高齢者専用のデイサービス)・ショートステイ (短期入所) などの整備 (60.0%)」、「認知症の相談窓口や相談体制の整備 (55.1%)」が続いている。

性・年代別にみると、男女ともに多くの項目で、年代が上がるに従い低率になる傾向がみられる。その中で、「認知症対応型通所介護 (認知症高齢者専用のデイサービス)・ショートステイ (短期入所) などの整備」は女性の年代が上がるに従い高率になる傾向がみられる。

(図表1-4-6)

図表1-4-6 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと
(全体、性・年代別：複数回答)

(%)

	認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実	認知症対応型通所介護 (短期入所) などの整備	認知症の相談窓口や相談体制の整備	地域による見守りや支援体制の充実	グループホームなどの専門的な施設の整備	特別養護老人ホームなどの整備	認知症に関わる専門職の育成	認知症についての啓発活動の充実	その他	無回答	
全体 (N= 552)	75.7	60.0	55.1	49.6	41.5	39.5	32.2	18.1	2.9	2.0	
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	73.5	57.5	56.6	54.9	46.0	35.4	27.4	22.1	3.5	2.7
	男性-50歳代 (n= 98)	71.4	52.0	50.0	44.9	32.7	34.7	27.6	17.3	2.0	4.1
	男性-60歳代 (n= 81)	64.2	50.6	54.3	43.2	33.3	38.3	27.2	27.2	4.9	3.7
	女性-40歳代 (n= 120)	82.5	64.2	59.2	57.5	45.8	40.8	35.8	16.7	2.5	0.0
	女性-50歳代 (n= 96)	80.2	68.8	57.3	50.0	49.0	46.9	35.4	11.5	2.1	0.0
	女性-60歳代 (n= 42)	83.3	69.0	50.0	33.3	35.7	42.9	47.6	9.5	2.4	2.4

5 地域のつながりについて

(1) 近所づきあいの程度 (問 19)

近所づきあいの程度は、「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる (49.1%)」が最も多く、「さしさわりのないことなら話せる人がいる (26.4%)」が続いている。また、「個人的なことを相談し合える人がいる (10.5%)」と「ほとんど近所づきあいをしない (12.7%)」はともに1割強である。

性・年代別にみると、男女ともに「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」は年代が上がるに従い低率となっており、男性では「ほとんど近所づきあいをしない」が増加する傾向がみられる。一方、女性では、「さしさわりのないことなら話せる人がいる」が年代が上がるに従い、高率になる傾向がみられる。

地区別にみると、第一地区と第三地区では、「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」が他の地区に比べ高くなっている。また、第一地区と第三地区に加えて第五地区では、「ほとんど近所づきあいをしない」が他の地区に比べ高くなっている。一方、第二地区と第四地区では、「個人的なことを相談し合える人がいる」の割合が若干高くなっている。(図表1-5-1)

図表1-5-1 近所づきあいの程度 (全体、性・年代別・地区別)

		(%)				
		個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら話せる人がいる	道で会えばあいさつをする程度の人ならいる	ほとんど近所づきあいをしない	無回答
全 体 (N= 552)		10.5	26.4	49.1	12.7	1.3
性・年代別	男性 -40 歳代 (n= 113)	9.7	23.0	56.6	9.7	0.9
	男性 -50 歳代 (n= 98)	10.2	30.6	46.9	10.2	2.0
	男性 -60 歳代 (n= 81)	2.5	27.2	45.7	21.0	3.7
	女性 -40 歳代 (n= 120)	13.3	20.8	50.0	15.8	0.0
	女性 -50 歳代 (n= 96)	13.5	27.1	49.0	9.4	1.0
	女性 -60 歳代 (n= 42)	14.3	38.1	38.1	9.5	0.0
地区別	第一地区 (n= 156)	9.0	22.4	53.2	14.1	1.3
	第二地区 (n= 73)	17.8	31.5	39.7	8.2	2.7
	第三地区 (n= 95)	8.4	17.9	56.8	16.8	0.0
	第四地区 (n= 78)	15.4	29.5	46.2	7.7	1.3
	第五地区 (n= 52)	7.7	36.5	38.5	17.3	0.0
	第六地区 (n= 89)	7.9	30.3	48.3	11.2	2.2

(2) 近所づきあいをしていない理由 (問 19-1)

近所づきあいの程度で「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」または「ほとんど近所づきあいをしない」と回答した人に、近所づきあいをしていない理由をたずねた。「普段つきあう機会がないから (56.9%)」と「仕事や家事で忙しく時間がないから (51.3%)」が5割を超え多く、「あまりかかわりを持ちたくないから (20.5%)」が約2割で続いている。

性・年代別にみると、男女ともに50歳代では、「普段つきあう機会がないから」、「あまりかかわりを持ちたくないから」、「気の合う人・話の合う人が近くにいないから」が他の年代に比べ高くなっている。逆に、男性60歳代では「普段つきあう機会がないから」、「仕事や家事で忙しく時間がないから」が低いのが特徴である。男女ともに「同世代の人が近くにいないから」が年代が上がるに従い低率になっている。(図表1-5-2)

図表1-5-2 近所づきあいをしていない理由 (全体、性・年代別：複数回答)
 <あまり近所づきあいをしていないと回答した人>

		(%)							
		仕事や家事で忙しく時間がないから	引越してきて間もないから	普段つきあう機会がないから	同世代の人が近くにいないから	気の合う人・話の合う人が近くにいないから	あまりかかわりを持ちたくないから	その他	無回答
全	体 (n= 341)	51.3	3.2	56.9	17.0	17.9	20.5	2.9	0.9
性・年代別	男性-40歳代 (n= 75)	53.3	1.3	57.3	14.7	16.0	17.3	4.0	1.3
	男性-50歳代 (n= 56)	55.4	1.8	62.5	14.3	21.4	25.0	0.0	1.8
	男性-60歳代 (n= 54)	44.4	5.6	48.1	7.4	20.4	20.4	3.7	0.0
	女性-40歳代 (n= 79)	51.9	2.5	57.0	25.3	15.2	20.3	2.5	1.3
	女性-50歳代 (n= 56)	50.0	5.4	60.7	23.2	21.4	21.4	3.6	0.0
	女性-60歳代 (n= 20)	50.0	5.0	50.0	10.0	5.0	20.0	5.0	0.0

(3) 地域の人たちにしてほしい手助け (問 20)

日常生活が不自由になったときに地域の人たちにしてほしい手助けは、「安否確認など (48.4%)」が最も多く、「災害時の手助け (45.1%)」、「ちょっとした買い物 (19.9%)」、「炊事・洗濯・掃除などの家事 (19.6%)」が続いている。「特にない」は17.9%となっている。

性・年代別にみると、男性の50歳代と60歳代では、「特にない」が25%超であり高くなっている。男性40歳代では、「趣味など世間話の相手」や「子どもや介護が必要な家族の預かり」がともに1割を超え他の年代より高くなっている。女性40歳代では、「ちょっとした買い物」や「炊事・洗濯・掃除などの家事」が他の年代に比べ高くなっている。

地区別にみると、第六地区では、「特にない (23.6%)」が若干高いことが特徴である。また、第四地区では、「ちょっとした買い物 (29.5%)」が約3割であり、他の地区に比べ高くなっている。(図表1-5-3)

図表1-5-3 地域の人たちにしてほしい手助け
(全体、性・年代別・地区別：複数回答(3つまで))

		安 否 確 認 な ど	災 害 時 の 手 助 け	ち よ つ と し た 買 い 物	炊 事 ・ 洗 濯 ・ 掃 除 な ど の 家 事	介 護 な ど の 相 談 相 手	外 出 の 付 添 い	ゴ ミ 出 し ・ 雨 戸 の 開 け 閉 め	電 球 交 換 や 簡 単 な 大 工 仕 事	趣 味 な ど 世 間 話 の 相 手	預 子 ど も や 介 護 が 必 要 な 家 族 の	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全	体 (N= 552)	48.4	45.1	19.9	19.6	13.9	9.6	9.6	7.1	6.5	6.0	2.4	17.9	4.2
性・ 年 代 別	男 性 -40 歳 代 (n= 113)	55.8	45.1	14.2	17.7	15.9	11.5	8.8	4.4	11.5	10.6	2.7	15.9	4.4
	男 性 -50 歳 代 (n= 98)	43.9	41.8	15.3	19.4	10.2	3.1	12.2	6.1	5.1	2.0	0.0	25.5	5.1
	男 性 -60 歳 代 (n= 81)	44.4	40.7	12.3	18.5	12.3	9.9	7.4	1.2	7.4	1.2	1.2	25.9	3.7
	女 性 -40 歳 代 (n= 120)	49.2	49.2	29.2	24.2	11.7	10.0	7.5	12.5	2.5	8.3	1.7	15.0	0.8
	女 性 -50 歳 代 (n= 96)	44.8	47.9	22.9	15.6	20.8	12.5	11.5	9.4	6.3	8.3	5.2	9.4	7.3
	女 性 -60 歳 代 (n= 42)	54.8	42.9	26.2	21.4	11.9	9.5	11.9	4.8	4.8	0.0	4.8	19.0	4.8
地 区 別	第 一 地 区 (n= 156)	46.2	46.8	16.7	17.9	15.4	8.3	9.0	7.1	5.1	5.8	3.2	19.2	5.8
	第 二 地 区 (n= 73)	50.7	31.5	17.8	19.2	9.6	8.2	12.3	4.1	5.5	2.7	2.7	17.8	6.8
	第 三 地 区 (n= 95)	53.7	44.2	20.0	23.2	13.7	14.7	11.6	8.4	5.3	4.2	2.1	15.8	3.2
	第 四 地 区 (n= 78)	48.7	52.6	29.5	25.6	16.7	12.8	9.0	11.5	10.3	9.0	0.0	11.5	2.6
	第 五 地 区 (n= 52)	38.5	55.8	23.1	19.2	11.5	5.8	11.5	9.6	7.7	13.5	3.8	17.3	1.9
	第 六 地 区 (n= 89)	50.6	42.7	18.0	12.4	13.5	6.7	4.5	3.4	7.9	4.5	2.2	23.6	3.4

(4) 地域の支え合いとしてできること (問21)

地域の支え合いとしてできることは、「安否確認など (68.5%)」が最も多く、「災害時の手助け (51.6%)」、「ちょっとした買い物 (36.4%)」が続いている。「特にない」は7.6%となっている。

性・年代別にみると、女性50歳代で、「災害時の手助け」と「ちょっとした買い物」が他の性別・年代に比べ高くなっている。男性60歳代では「安否確認など (60.5%)」が他の年代に比べ低く、「特にない (16.0%)」が高いのが特徴である。

地区別にみると、第五地区では多くの項目で他の地区に比べ高いことが特徴である。(図表1-5-4)

図表1-5-4 地域の支え合いとしてできること
(全体、性・年代別・地区別：複数回答(3つまで))

		(%)												
		安否確認など	災害時の手助け	ちょっとした買い物	ゴミ出し・雨戸の開け閉め	趣味など世間話の相手	電球交換や簡単な大工仕事	外出の付添い	炊事・洗濯・掃除などの家事	介護などの相談相手	子どもや介護が必要な家族の預かり	その他	特にない	無回答
性・年代別	全 体 (N= 552)	68.5	51.6	36.4	16.1	14.7	12.7	9.8	8.3	6.9	5.6	1.4	7.6	2.2
	男性-40歳代 (n= 113)	74.3	51.3	29.2	14.2	13.3	19.5	9.7	5.3	8.0	8.0	0.9	7.1	1.8
	男性-50歳代 (n= 98)	68.4	50.0	26.5	12.2	13.3	19.4	5.1	6.1	4.1	2.0	0.0	7.1	4.1
	男性-60歳代 (n= 81)	60.5	53.1	25.9	13.6	11.1	19.8	3.7	6.2	4.9	3.7	2.5	16.0	2.5
	女性-40歳代 (n= 120)	68.3	50.0	47.5	14.2	16.7	6.7	13.3	11.7	5.0	10.8	0.8	5.8	0.8
	女性-50歳代 (n= 96)	67.7	58.3	50.0	24.0	18.8	5.2	12.5	9.4	10.4	3.1	3.1	4.2	1.0
	女性-60歳代 (n= 42)	73.8	42.9	38.1	23.8	11.9	0.0	16.7	11.9	11.9	2.4	2.4	7.1	2.4
地区別	第一地区 (n= 156)	64.7	51.9	36.5	14.1	15.4	11.5	9.6	7.1	7.7	5.1	1.9	10.9	1.3
	第二地区 (n= 73)	65.8	41.1	37.0	17.8	21.9	12.3	13.7	4.1	5.5	4.1	1.4	5.5	2.7
	第三地区 (n= 95)	66.3	52.6	32.6	16.8	11.6	8.4	5.3	6.3	3.2	2.1	2.1	9.5	3.2
	第四地区 (n= 78)	75.6	52.6	39.7	16.7	15.4	14.1	7.7	14.1	10.3	9.0	0.0	3.8	2.6
	第五地区 (n= 52)	80.8	67.3	53.8	19.2	7.7	26.9	11.5	15.4	3.8	11.5	0.0	3.8	0.0
	第六地区 (n= 89)	68.5	48.3	28.1	16.9	15.7	10.1	12.4	7.9	9.0	4.5	2.2	6.7	2.2

6 災害時の対応について

(1) 災害時の不安や心配ごと (問 22)

災害時の不安や心配ごとについては、「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと (56.2%)」が最も多く、「家具や家電の転倒対策が不十分なこと (37.3%)」、「老朽化など住まい (家屋) のこと (32.6%)」、「同居の家族の歩行に不安があること (21.6%)」が続いている。

性・年代別にみると、「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと」は男女ともに年代が上がるに従い低率になり、「家具や家電の転倒対策が不十分なこと」は男性で年代が上がるに従い低率になっている。逆に、「老朽化など住まい (家屋) のこと」は年代が上がるに従い高率になっている。女性では、多くの項目で年代が上がるに従い高率になる傾向がみられる。

地区別にみると、第四地区では「家具や家電の転倒対策が不十分なこと」と「老朽化など住まい (家屋) のこと」、第五地区では「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと」と「同居の家族の歩行に不安があること」、第六地区では「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと」が他の地区に比べ高いのが特徴である。(図表 1-6-1)

図表 1-6-1 災害時の不安や心配ごと (全体、性・年代別・地区別：複数回答)

		(%)								
		食糧や日用品の備蓄が不十分なこと	家具や家電の転倒対策が不十分なこと	老朽化など住まい (家屋) のこと	同居の家族の歩行に不安があること	避難所がはつきり分らないこと	特に不安や心配ごとはない	自分の歩行に不安があること	その他	無回答
全	体 (N= 552)	56.2	37.3	32.6	21.6	19.9	7.8	4.0	6.7	1.3
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	61.9	37.2	31.0	21.2	17.7	7.1	0.9	6.2	1.8
	男性-50歳代 (n= 98)	55.1	36.7	33.7	21.4	13.3	10.2	4.1	1.0	3.1
	男性-60歳代 (n= 81)	48.1	27.2	35.8	17.3	28.4	11.1	4.9	4.9	2.5
	女性-40歳代 (n= 120)	65.8	37.5	30.0	20.0	20.0	5.8	1.7	10.8	0.0
	女性-50歳代 (n= 96)	57.3	41.7	30.2	21.9	24.0	6.3	7.3	9.4	0.0
	女性-60歳代 (n= 42)	28.6	47.6	40.5	33.3	16.7	7.1	7.1	7.1	0.0
地区別	第一地区 (n= 156)	55.8	34.6	26.9	14.7	21.8	7.7	6.4	7.1	0.6
	第二地区 (n= 73)	52.1	41.1	28.8	19.2	21.9	9.6	2.7	13.7	2.7
	第三地区 (n= 95)	56.8	37.9	36.8	28.4	13.7	4.2	5.3	5.3	2.1
	第四地区 (n= 78)	51.3	44.9	39.7	30.8	15.4	7.7	0.0	2.6	1.3
	第五地区 (n= 52)	61.5	36.5	36.5	32.7	23.1	11.5	1.9	5.8	0.0
	第六地区 (n= 89)	60.7	33.7	32.6	14.6	24.7	9.0	2.2	5.6	1.1

(2) 災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うもの (問 23)

災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うものは、「地域住民どうしの声
がけや安否確認 (63.0%)」が最も多く、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など
(52.2%)」、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成 (46.4%)」が続いている。

性・年代別にみると、多くの項目で年代が上がるに従い、低率になる傾向がみられる。そ
の中で、女性では「地域住民どうしの声かけや安否確認」、男性では「地域ぐるみの実践的な
防災訓練の充実」が年代が上がるに従い高率になる傾向がみられる。

地区別にみると、第四地区、第五地区、第六地区では、「地域住民どうしの声かけや安否確
認」が約7割を占め高くなっている。第六地区では、多くの項目で他の地区に比べ高いが、
「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」が低いことが特徴である。(図表1-6-
2)

図表1-6-2 災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うもの
(全体、性・年代別・地区別：複数回答)

		否 確 認	地 域 住 民 ど う し の 声 が け や 安 否 確 認	備 蓄 品 の 会 社 に よ る 場 の 提 供 や	商 店 や 会 社 に よ る 場 の 提 供 や	防 災 マ ッ プ の 防 災 マ ニ ュ ア ル や	地 域 独 自 の 防 災 マ ニ ュ ア ル の 作 成	練 地 域 の 充 実	地 域 を ま わ る 実 践 的 な 防 災 訓 練	動 住 民 た ち で 行 う 防 災 組 織 の 活 動	小 ・ 中 学 校 の 防 災 教 育 ・ 訓 練	ろ 地 域 内 外 の 交 流	習 地 域 住 民 を 対 象 と し た 防 災 講 習 会 ・ 学 習 会 の 開 催	そ の 他	無 回 答
全	体 (N= 552)	63.0	52.2	46.4	31.5	27.0	25.4	16.7	16.1	1.6	2.4				
性・ 年代別	男性-40歳代 (n= 113)	63.7	46.0	45.1	30.1	33.6	31.0	22.1	22.1	3.5	1.8				
	男性-50歳代 (n= 98)	64.3	53.1	45.9	30.6	28.6	18.4	14.3	14.3	0.0	5.1				
	男性-60歳代 (n= 81)	63.0	42.0	35.8	45.7	30.9	19.8	13.6	23.5	3.7	2.5				
	女性-40歳代 (n= 120)	59.2	60.8	45.0	26.7	22.5	34.2	19.2	12.5	0.0	1.7				
	女性-50歳代 (n= 96)	60.4	57.3	57.3	33.3	22.9	22.9	13.5	10.4	2.1	1.0				
	女性-60歳代 (n= 42)	73.8	50.0	50.0	19.0	19.0	16.7	9.5	11.9	0.0	2.4				
地区別	第一地区 (n= 156)	56.4	55.8	47.4	33.3	23.7	26.9	15.4	15.4	0.6	1.3				
	第二地区 (n= 73)	64.4	52.1	50.7	28.8	24.7	20.5	13.7	9.6	0.0	4.1				
	第三地区 (n= 95)	57.9	51.6	47.4	26.3	23.2	24.2	15.8	22.1	2.1	3.2				
	第四地区 (n= 78)	69.2	57.7	47.4	35.9	28.2	26.9	17.9	17.9	1.3	2.6				
	第五地区 (n= 52)	73.1	57.7	38.5	25.0	28.8	26.9	19.2	9.6	1.9	0.0				
	第六地区 (n= 89)	70.8	40.4	43.8	36.0	38.2	28.1	20.2	20.2	3.4	3.4				

(3) 災害時に手助けが必要な人にできること (問 24)

災害時に手助けが必要な人にできることについては、「避難所での支援活動 (65.2%)」が最も多く、次の「手助けの必要な方への声掛け (61.1%)」も6割を超えている。次いで、「子どものいる家族への手助け (30.4%)」となっている。「特にできることはない (9.2%)」は約1割である。

性・年代別にみると、多くの項目で年代が上がるに従い低率になる傾向がみられるが、男性では「水や食糧の提供」が年代が上がるに従い高率になる傾向がみられる。

地区別にみると、第五地区では多くの項目が高くなっている。(図表1-6-3)

図表1-6-3 災害時に手助けが必要な人にできること
(全体、性・年代別・地区別：複数回答)

(%)

		避難所での支援活動	手助けの必要な方への声掛け	子どものいる家族への手助け	水や食糧の提供	けが人の手当て	特にできることはない	その他	無回答
全 体 (N= 552)		65.2	61.1	30.4	11.8	10.1	9.2	2.2	2.7
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	74.3	66.4	31.9	10.6	14.2	5.3	4.4	0.9
	男性-50歳代 (n= 98)	64.3	53.1	23.5	17.3	11.2	12.2	1.0	3.1
	男性-60歳代 (n= 81)	63.0	49.4	25.9	19.8	14.8	9.9	2.5	2.5
	女性-40歳代 (n= 120)	66.7	66.7	33.3	7.5	7.5	10.0	0.8	1.7
	女性-50歳代 (n= 96)	65.6	65.6	39.6	8.3	5.2	9.4	3.1	0.0
	女性-60歳代 (n= 42)	45.2	64.3	23.8	7.1	4.8	9.5	0.0	14.3
地区別	第一地区 (n= 156)	64.1	59.0	29.5	10.9	10.9	10.3	1.3	1.3
	第二地区 (n= 73)	60.3	67.1	37.0	11.0	6.8	11.0	1.4	2.7
	第三地区 (n= 95)	66.3	61.1	25.3	13.7	8.4	9.5	2.1	4.2
	第四地区 (n= 78)	67.9	61.5	29.5	12.8	10.3	10.3	2.6	2.6
	第五地区 (n= 52)	71.2	73.1	42.3	13.5	15.4	1.9	3.8	1.9
	第六地区 (n= 89)	65.2	53.9	28.1	11.2	11.2	9.0	1.1	3.4

7 就労状況について

(1) 収入のある仕事の有無 (問 25)

収入のある仕事の有無は、「仕事についている (77.5%)」が7割台と最も多く、「仕事をする意思がないので、働いていない (6.9%)」が続いている。

性・年代別にみると、「仕事についている」は、男女ともに年代が上がるに従い、低率になる傾向がみられる。一方、「仕事をする意思がないので、働いていない」は、女性の年代が上がるに従い高率になる傾向がみられる。(図表1-7-1)

図表1-7-1 収入のある仕事の有無 (全体：性・年代別)

		(%)					
		仕事についている	悪い仕事をしたいが、体の具合が	の仕事をしていないが、仕事がない	働いていない意思がないので、	その他	無回答
全	体 (N= 552)	77.5	4.3	4.3	6.9	5.1	1.8
性・年代別	男性 -40 歳代 (n= 113)	96.5	0.0	1.8	0.0	1.8	0.0
	男性 -50 歳代 (n= 98)	90.8	5.1	1.0	0.0	1.0	2.0
	男性 -60 歳代 (n= 81)	67.9	3.7	9.9	12.3	3.7	2.5
	女性 -40 歳代 (n= 120)	76.7	3.3	4.2	7.5	7.5	0.8
	女性 -50 歳代 (n= 96)	66.7	8.3	5.2	11.5	7.3	1.0
	女性 -60 歳代 (n= 42)	45.2	7.1	7.1	19.0	14.3	7.1

(2) 今後働きたいかたち (問 26)

今後働きたいかたちは、「自分の知識や技能をいかして、収入の多い仕事をしたい (46.2%)」が最も多く5割近くを占めている。次いで、「自分の知識や技能をいかした仕事ができれば、収入は少なくともよい (23.7%)」が2割強を占めている。

性・年代別にみると、「自分の知識や技能をいかして、収入の多い仕事をしたい」は男女ともに年代が上がるに従い、低率になる傾向がみられる。他の項目では、男女ともに年代が上がるに従い高率になっている。(図表1-7-2)

図表1-7-2 今後働きたいかたち (全体：性・年代別)

		(%)						
		自分の知識や技能をいかして、収入	自分の知識や技能をいかして、収入が	自分の知識や技能をいかして、収入が	地域に貢献できる仕事ができれば、	地域に貢献できる仕事があれば、収入	その他	無回答
全	体 (N= 552)	46.2	23.7	1.8	11.1	1.6	7.1	8.5
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	74.3	13.3	0.0	8.0	0.0	2.7	1.8
	男性-50歳代 (n= 98)	50.0	30.6	2.0	9.2	0.0	2.0	6.1
	男性-60歳代 (n= 81)	23.5	32.1	7.4	17.3	2.5	6.2	11.1
	女性-40歳代 (n= 120)	54.2	21.7	0.0	4.2	0.8	14.2	5.0
	女性-50歳代 (n= 96)	34.4	25.0	0.0	14.6	4.2	8.3	13.5
	女性-60歳代 (n= 42)	11.9	23.8	4.8	23.8	4.8	9.5	21.4

8 生活について

(1) 生活に大きな位置を占めるもの (問 27)

生活に大きな位置を占めるものは、「仕事(70.5%)」が最も多く、「家族との生活(55.1%)」、「家事(32.1%)」が続いている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が上がるに従い「仕事」は低率になっている。また、女性では、「家族との生活」も年代が上がるに従い低率になっている。女性は、「家事」、「友人・知人との交流」と「介護」が、男性では「旅行」が、年代が上がるに従い高率になっている。また、女性50歳代で「動物(ペット)との生活」が、男女ともに60歳代で「学習・趣味活動」が他の性・年代に比べ高いのが特徴である。

地区別にみると、第一地区では「家事」が、第四地区では「学習・趣味活動」が高くなっている。また、第五地区では他の地区に比べ、「仕事」と「家族との生活」が高く、「介護」が低くなっている。(図表1-8-1)

図表1-8-1 生活に大きな位置を占めるもの(全体、性・年代別、地区別：複数回答(3つまで))

		仕事	家族との生活	家事	友人・知人との交流	学習・趣味活動	健康管理やスポーツ活動	動物(ペット)との生活	旅行	介護	治療・療養	地域活動・ボランティア活動	孫の世話	近所づきあい	その他	特にない	無回答
全 体 (N= 552)		70.5	55.1	32.1	17.8	17.4	11.4	11.1	9.8	8.7	4.5	3.8	3.4	2.2	2.2	1.4	0.5
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	91.2	53.1	11.5	15.9	18.6	10.6	6.2	8.0	2.7	0.9	8.8	0.0	0.0	0.9	0.9	0.0
	男性-50歳代 (n= 98)	85.7	49.0	10.2	14.3	18.4	17.3	4.1	14.3	4.1	5.1	3.1	3.1	3.1	1.0	1.0	2.0
	男性-60歳代 (n= 81)	59.3	49.4	11.1	16.0	24.7	14.8	12.3	17.3	4.9	3.7	8.6	9.9	2.5	2.5	3.7	0.0
	女性-40歳代 (n= 120)	70.0	71.7	50.8	16.7	12.5	8.3	7.5	4.2	9.2	5.8	0.0	0.8	0.8	5.0	1.7	0.0
	女性-50歳代 (n= 96)	56.3	56.3	57.3	19.8	11.5	9.4	25.0	8.3	14.6	4.2	1.0	4.2	2.1	1.0	1.0	1.0
	女性-60歳代 (n= 42)	38.1	35.7	66.7	31.0	26.2	7.1	16.7	9.5	28.6	9.5	0.0	7.1	7.1	2.4	0.0	0.0
地区別	第一地区 (n= 156)	64.7	57.7	38.5	20.5	14.7	14.1	9.6	11.5	7.7	5.8	3.2	4.5	0.6	1.9	1.9	0.0
	第二地区 (n= 73)	69.9	49.3	34.2	13.7	17.8	12.3	12.3	5.5	13.7	4.1	6.8	4.1	4.1	6.8	0.0	2.7
	第三地区 (n= 95)	74.7	50.5	21.1	20.0	18.9	12.6	8.4	13.7	9.5	0.0	2.1	1.1	1.1	2.1	2.1	1.1
	第四地区 (n= 78)	71.8	62.8	37.2	15.4	23.1	7.7	12.8	6.4	14.1	6.4	6.4	1.3	3.8	1.3	0.0	0.0
	第五地区 (n= 52)	76.9	67.3	26.9	25.0	15.4	9.6	5.8	7.7	1.9	3.8	0.0	1.9	1.9	1.9	1.9	0.0
	第六地区 (n= 89)	73.0	50.6	30.3	11.2	16.9	9.0	16.9	9.0	4.5	4.5	4.5	6.7	3.4	0.0	2.2	0.0

(2) 生きがいを感じる程度 (問 28)

生きがいを感じる程度は、「十分に感じている」が33.7%と3分の1、「多少感じている」が44.4%で、合計すると78.1%が生きがいを感じていると答えている。また、「あまり感じていない」が14.7%、「まったく感じていない」が2.4%、「わからない」が4.0%となっている。(図表1-8-2)

図表1-8-2 生きがいを感じる程度 (全体)



(3) 元気に過ごすための生活設計 (問 29)

元気に過ごすための生活設計は、「今までの経験をいかし」、「家族のために」・「自分のために」、「地元で」、「楽しみたい」・「役に立ちたい」という方向性がみられる。(図表1-8-3)

図表1-8-3 元気に過ごすための生活設計 (全体)

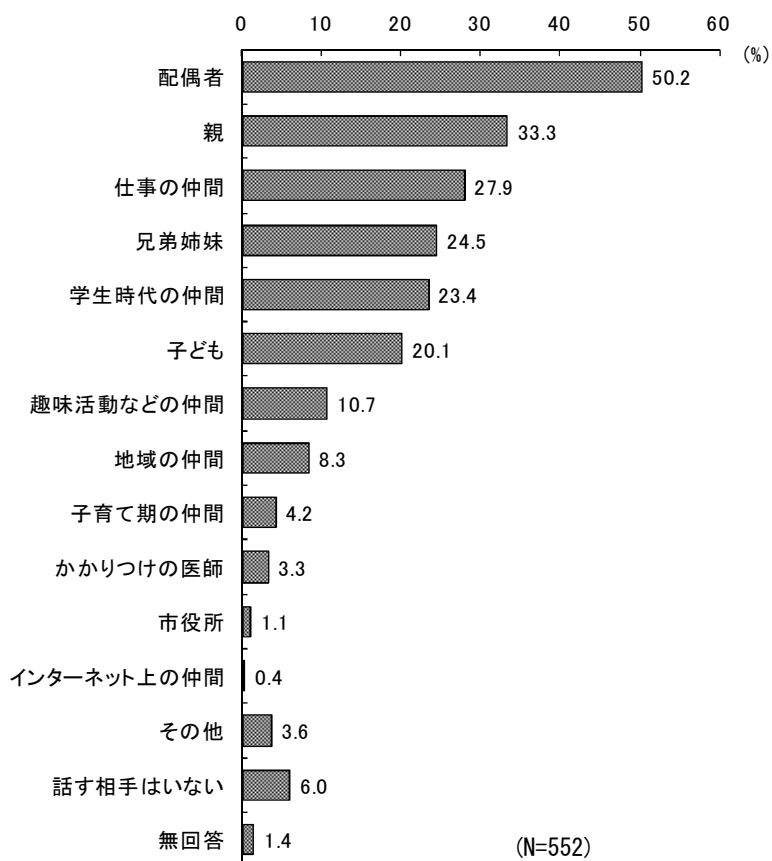
(n=552, 単位:%)

どんなことで		誰のために		どこで		どうしたいか	
今までの経験をいかし、	49.1	家族のために、	35.5	地元で、	36.2	楽しみたい	39.3
求められていることで、	24.3	自分のために、	30.6	自宅で、	25.5	役立ちたい	31.9
いままでとは違うことで、	13.2	社会のために、	19.0	地元以外で、	2.7	成長していきたい	15.4
何となく、	10.5	誰のためでもなく、	11.4	どこでもいいから、	32.6	のんびりしたい	9.8
無回答	2.9	無回答	3.4	無回答	2.9	無回答	3.6

(4) 悩みや心配ごと、将来について話し合う人 (問 30)

悩みや心配ごと、将来について話し合う人は、「配偶者 (50.2%)」が半数を占め最も多く、「親 (33.3%)」、「仕事の仲間 (27.9%)」、「兄弟姉妹 (24.5%)」が続いている。(図表 1-8-4)

図表 1-8-4 悩みや心配ごと、将来について話し合う人 (全体：複数回答 (3つまで))

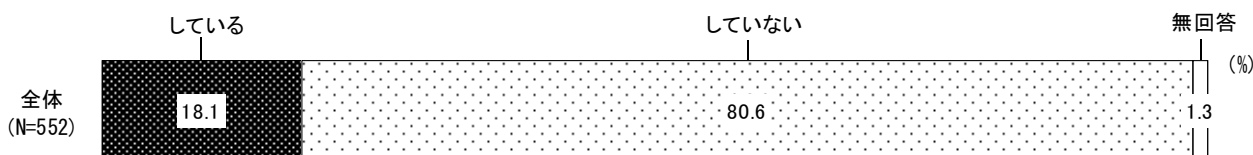


(5) 親の介護について

① 親の介護の有無 (問 31)

親の介護の有無については、「している」は18.1%、「していない」は80.6%となっている。(図表 1-8-5-①)

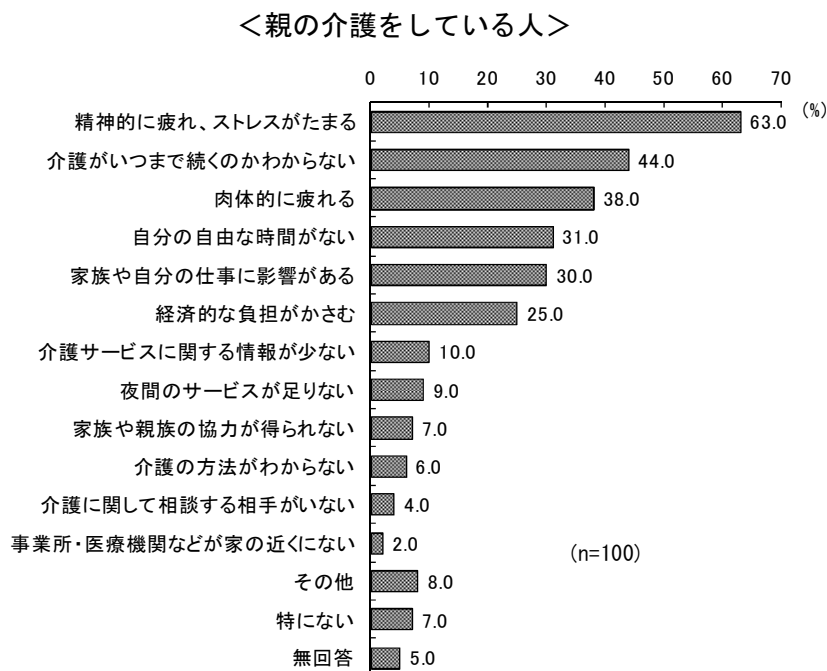
図表 1-8-5-① 親の介護の有無 (全体)



②介護をしていくうえでの問題点（問31-1）

親の介護をしている人に介護をしていくうえでの問題点をたずねたところ、「精神的に疲れ、ストレスがたまる(63.0%)」が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない(44.0%)」、「肉体的に疲れる(38.0%)」が続いている。(図表1-8-5-②)

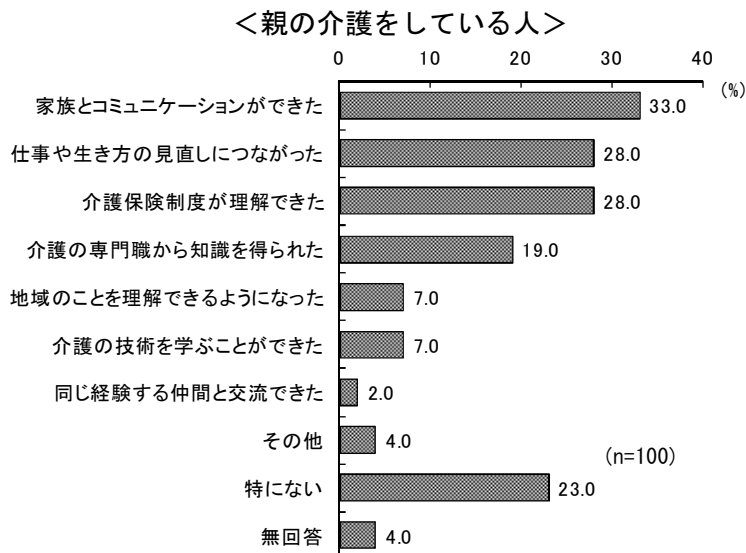
図表1-8-5-② 介護をしていくうえでの問題点（全体：複数回答）



③介護をしていて良かったと思うこと（問31-2）

親の介護をしている人に介護をしていて良かったと思うことをたずねたところ、「家族とコミュニケーションができた(33.0%)」が最も多く、「仕事や生き方の見直しにつながった(28.0%)」、「介護保険制度が理解できた(28.0%)」が同率で続いている。また、「特にない(23.0%)」は2割強となっている。(図表1-8-5-③)

図表1-8-5-③ 介護をしていて良かったと思うこと（全体：複数回答）



(6) 地域包括支援センターの認知度 (問 32)

地域包括支援センターの認知度は、「知らない (48.2%)」が約半数近くを占めている。また、「利用したことがある」が14.1%、「名前を聞いたことがある」が35.5%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに「知らない」が多いが、女性では年代が上がるに従い低率になっている。「利用したことがある」が女性50歳代で26.0%と4分の1を超えて高いのが特徴である。

地区別にみると、第四地区では「利用したことがある」が23.1%と4分の1近くを占めている。第五地区では、「知らない (59.6%)」が約6割を占め、高くなっている。(図表1-8-6)

図表1-8-6 地域包括支援センターの認知度 (全体、性・年代別、地区別)

		(%)			
		利用 した こと が あ る	名 前 を 聞 い た こ と が あ る	知 ら な い	無 回 答
全 体 (N= 552)		14.1	35.5	48.2	2.2
性・ 年 代 別	男 性 -40 歳 代 (n= 113)	10.6	33.6	54.9	0.9
	男 性 -50 歳 代 (n= 98)	12.2	26.5	57.1	4.1
	男 性 -60 歳 代 (n= 81)	13.6	40.7	42.0	3.7
	女 性 -40 歳 代 (n= 120)	8.3	40.0	51.7	0.0
	女 性 -50 歳 代 (n= 96)	26.0	32.3	38.5	3.1
	女 性 -60 歳 代 (n= 42)	19.0	42.9	35.7	2.4
地 区 別	第 一 地 区 (n= 156)	8.3	39.7	51.3	0.6
	第 二 地 区 (n= 73)	12.3	41.1	45.2	1.4
	第 三 地 区 (n= 95)	17.9	31.6	46.3	4.2
	第 四 地 区 (n= 78)	23.1	38.5	38.5	0.0
	第 五 地 区 (n= 52)	15.4	21.2	59.6	3.8
	第 六 地 区 (n= 89)	13.5	32.6	49.4	4.5

(7) 携帯電話やスマートフォン使用の有無 (問 33)

携帯電話やスマートフォン使用の有無は、「使っている (91.3%)」が9割を超えている。「使っていない」は7.6%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに「使っている」が8～9割超であり、年代が上がるに従い低率になっている。特に女性の40歳代、50歳代では95%前後を占め高くなっている。(図表1-8-7)

図表1-8-7 携帯電話やスマートフォン使用の有無 (全体、性・年代別)

		(%)		
		使 っ て い る	使 っ て い な い	無 回 答
全	体 (N= 552)	91.3	7.6	1.1
性・ 年代別	男性-40歳代 (n= 113)	91.2	8.0	0.9
	男性-50歳代 (n= 98)	90.8	8.2	1.0
	男性-60歳代 (n= 81)	86.4	9.9	3.7
	女性-40歳代 (n= 120)	96.7	3.3	0.0
	女性-50歳代 (n= 96)	94.8	5.2	0.0
	女性-60歳代 (n= 42)	81.0	16.7	2.4

(8) 携帯電話等で府中市から情報提供を受けたいか (問 34)

携帯電話等で府中市から情報提供を受けたいかについては、「希望する (37.1%)」が4割弱、「希望しない (58.2%)」が6割近くを占めている。

性・年代別にみると、男女ともに「希望しない」が多いが、男性50歳代と女性40歳代とともに6割を超えている。(図表1-8-8)

図表1-8-8 携帯電話等で府中市から情報提供を受けたいか (全体、性・年代別)

		(%)		
		希 望 す る	希 望 し な い	無 回 答
全	体 (N= 552)	37.1	58.2	4.7
性・ 年代別	男性-40歳代 (n= 113)	37.2	59.3	3.5
	男性-50歳代 (n= 98)	35.7	61.2	3.1
	男性-60歳代 (n= 81)	44.4	51.9	3.7
	女性-40歳代 (n= 120)	34.2	62.5	3.3
	女性-50歳代 (n= 96)	40.6	54.2	5.2
	女性-60歳代 (n= 42)	28.6	57.1	14.3

(9) 知っている介護保険制度・しくみ (問 35)

知っている介護保険制度・しくみは、「要支援・要介護認定を受ければ介護保険サービス(居宅・施設)を受けられること(54.5%)」が最も多く、「介護保険サービスを利用すると利用料の1割を負担すること(37.1%)」、「第2号被保険者(40～64歳)の保険料は全国で決められ、各医療保険者を通じて徴収されること(36.1%)」が続いている。「どれも知らない」は25.4%で4分の1となっている。

性・年代別にみると、ほとんどの項目で年代が上がるに従い高率になっている。特に、「要支援・要介護認定を受ければ介護保険サービス(居宅・施設)を受けられること」は、男性40歳代では38.1%と4割に満たないのに対し、女性60歳代では81.0%と8割を超えている。

「どれも知らない」は男女ともに40歳代では3割を超えており、年代が上がるに従い低率になっている。(図表1-8-9)

図表1-8-9 知っている介護保険制度・しくみ (全体、性・年代別：複数回答)

(%)

	要支援・要介護認定を受けられること	介護保険サービスを利用すると利用料の1割を負担すること	第2号被保険者(40～64歳)の保険料は全国で決められ、各医療保険者を通じて徴収されること	第1号被保険者(65歳以上)の保険料は(市町村)ごとに決められること	保険料を滞納すると、介護保険サービスの利用が制限されること	介護・保険サービスの提供量や利用量が増えること	第2号被保険者はがん末期などの特定疾患があると介護保険サービスが受けられること	どれも知らない	無回答
全体 (N= 552)	54.5	37.1	36.1	31.0	22.3	20.7	10.0	25.4	4.5
男性-40歳代 (n= 113)	38.1	22.1	33.6	22.1	26.5	20.4	8.8	36.3	6.2
男性-50歳代 (n= 98)	52.0	34.7	39.8	35.7	22.4	18.4	11.2	22.4	5.1
男性-60歳代 (n= 81)	50.6	39.5	40.7	35.8	24.7	27.2	3.7	19.8	6.2
女性-40歳代 (n= 120)	51.7	36.7	35.0	20.8	15.8	15.8	10.8	32.5	2.5
女性-50歳代 (n= 96)	72.9	46.9	31.3	36.5	19.8	20.8	11.5	19.8	1.0
女性-60歳代 (n= 42)	81.0	59.5	40.5	52.4	31.0	28.6	16.7	7.1	4.8

9 社会活動について

(1) 地域活動や社会活動への参加経験（問36）

地域活動や社会活動への参加経験は、「現在行っている（8.7%）」が1割に満たず、「経験はあるが、現在は行っていない（16.3%）」が1割強、「経験はない（72.6%）」が7割強を占めている。

性・年代別にみると、男性では「現在行っている」が年代が上がるに従い高率になっている。

地区別にみると、第二地区と第四地区では「現在行っている」が1割を大きく超えている。第一地区では「経験はあるが、現在は行っていない」が2割を超えている。「経験はない」は、各地区ともに7割前後を占めているが、第五地区では86.5%と高いのが目につく。（図表1-9-1）

図表1-9-1 地域活動や社会活動への参加経験（全体、性・年代別、地区別）

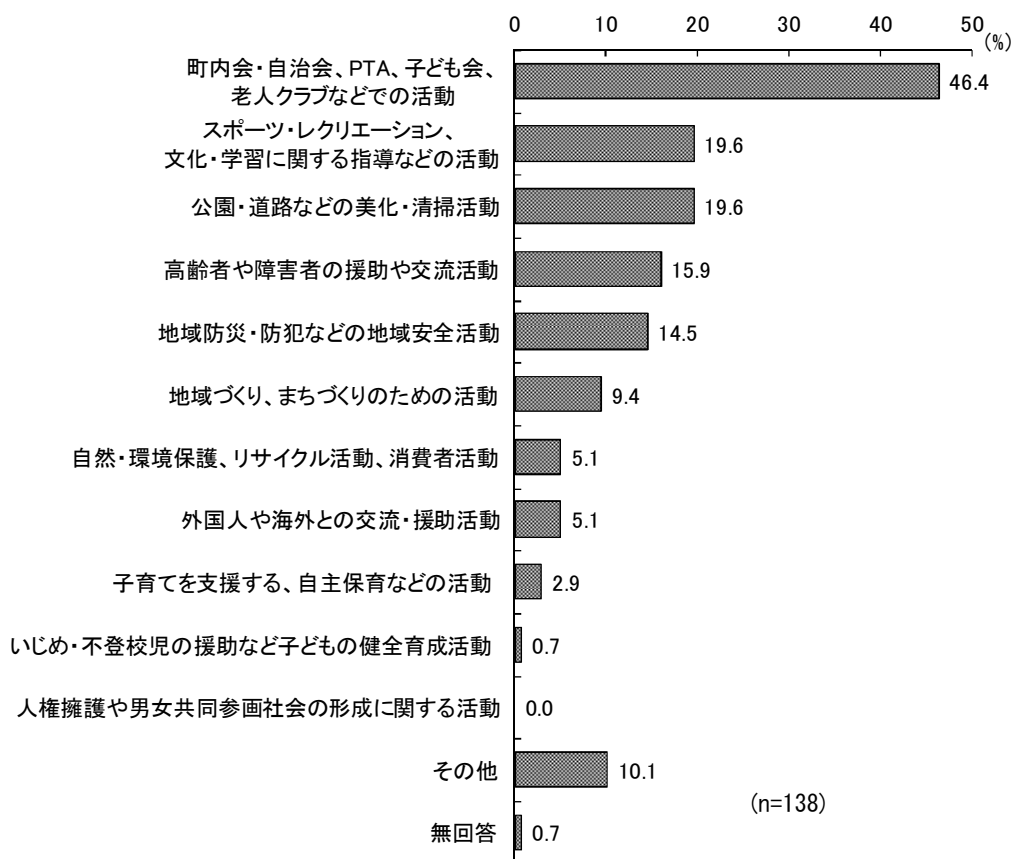
		(%)			
		現在行っている	経験はあるが、現在は行っていない	経験はない	無回答
全 体 (N= 552)		8.7	16.3	72.6	2.4
性・年代別	男性-40歳代 (n= 113)	9.7	22.1	66.4	1.8
	男性-50歳代 (n= 98)	10.2	15.3	71.4	3.1
	男性-60歳代 (n= 81)	16.0	4.9	72.8	6.2
	女性-40歳代 (n= 120)	4.2	15.0	80.0	0.8
	女性-50歳代 (n= 96)	7.3	21.9	69.8	1.0
	女性-60歳代 (n= 42)	4.8	14.3	78.6	2.4
地区別	第一地区 (n= 156)	8.3	21.2	69.9	0.6
	第二地区 (n= 73)	13.7	11.0	72.6	2.7
	第三地区 (n= 95)	6.3	14.7	75.8	3.2
	第四地区 (n= 78)	14.1	16.7	69.2	0.0
	第五地区 (n= 52)	0.0	13.5	86.5	0.0
	第六地区 (n= 89)	7.9	16.9	69.7	5.6

(2) 参加している（していた）活動（問36-1）

地域活動や社会活動に参加経験がある人に活動内容をたずねたところ、「町内会・自治会、PTA、子ども会、老人クラブなどでの活動（46.4%）」が最も多くなっている。（図表1-9-2）

図表1-9-2 参加している（していた）活動（全体：複数回答）

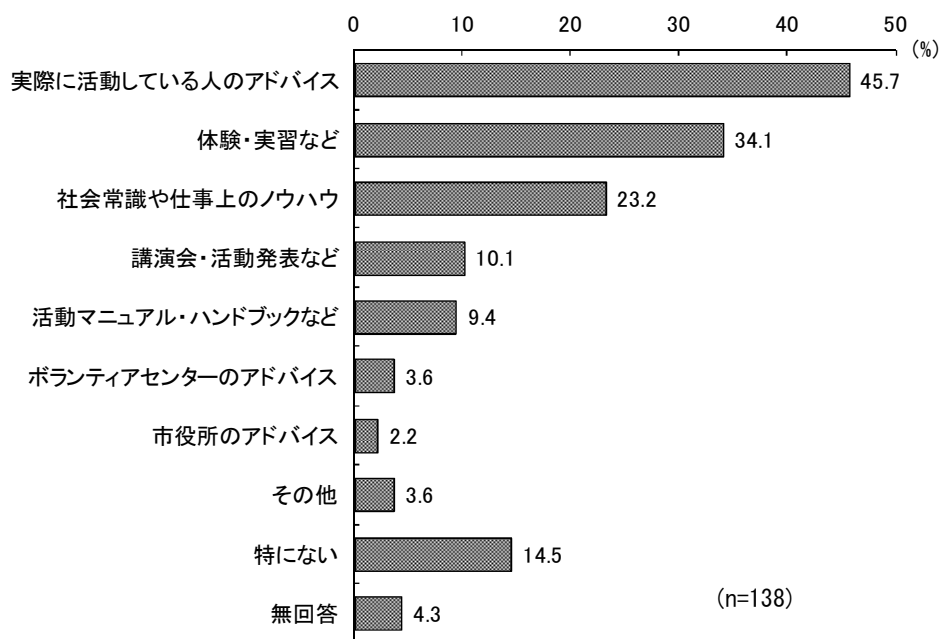
＜地域活動や社会活動に参加経験がある人＞



(3) 活動のノウハウの入手先 (問 36-2)

地域活動や社会活動に参加経験がある人に活動のためのノウハウの入手先をたずねたところ、「実際に活動している人のアドバイス(45.7%)」が最も多く、「体験・実習など(34.1%)」、「社会常識や仕事上のノウハウ (23.2%)」が続いている。(図表1-9-3)

図表1-9-3 活動のノウハウの入手先 (全体：複数回答)
 <地域活動や社会活動に参加経験がある人>



(4) 今後の地域活動への参加意向 (問 37)

今後の地域活動への参加意向は、「参加したい・続けたい」が27.4%となっている。

性・年代別にみると、男性の40歳代と60歳代では「参加したい・続けたい」が3割を超え、他の年代に比べ高くなっている。

地区別にみると、第二地区と第四地区では「参加したい・続けたい」が3分の1以上を占め、他の地区に比べ高くなっている。(図表1-9-4)

図表1-9-4 今後の地域活動への参加意向 (全体、性・年代別、地区別)

		(%)				
		続 け 加 た し た い ・	変 更 加 え た の 仕 方 を	し た 動 く を 辞 め た い ・	未 わ か ら な い ・	無 回 答
全	体 (N= 552)	27.4	0.5	4.7	64.9	2.5
性・ 年代別	男性-40歳代 (n= 113)	32.7	0.0	7.1	57.5	2.7
	男性-50歳代 (n= 98)	24.5	1.0	3.1	69.4	2.0
	男性-60歳代 (n= 81)	30.9	1.2	3.7	58.0	6.2
	女性-40歳代 (n= 120)	26.7	0.8	2.5	70.0	0.0
	女性-50歳代 (n= 96)	22.9	0.0	7.3	67.7	2.1
	女性-60歳代 (n= 42)	26.2	0.0	4.8	64.3	4.8
地区別	第一地区 (n= 156)	23.1	0.6	6.4	67.3	2.6
	第二地区 (n= 73)	37.0	0.0	2.7	57.5	2.7
	第三地区 (n= 95)	25.3	0.0	6.3	65.3	3.2
	第四地区 (n= 78)	33.3	0.0	3.8	62.8	0.0
	第五地区 (n= 52)	21.2	1.9	3.8	73.1	0.0
	第六地区 (n= 89)	29.2	1.1	2.2	62.9	4.5

10 高齢者保健福祉サービスについて

(1) 優先して充実すべき高齢者保健福祉サービス (問 38)

優先して充実すべき府中市の高齢者保健福祉サービスは、「家族介護者への支援制度を充実すること (41.7%)」が最も多く、「高齢者が働く場所を確保すること (38.9%)」、「訪問介護やデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させること (31.0%)」、「特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること (30.1%)」が続いている。

性・年代別にみると、多くの項目で、年代が上がるに従い低率になっている。男性では60歳代で「介護予防サービスを充実すること」が、女性では50歳代で「認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること」が他の性・年代に比べ高くなっている。(図表1-10-1)

図表1-10-1 優先して充実すべき高齢者保健福祉サービス
(全体、性・年代別：複数回答(3つまで))

	家族介護者への支援制度を充実すること	高齢者が働く場所を確保すること	訪問介護やデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させること	特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること	認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること	高齢者にやさしいまちづくりを推進すること	介護予防サービスを充実すること	生きがいづくりを推進すること(ポランティア、文化・スポーツ活動の促進など)	高齢者向けの住宅を整備したり、住宅を改修すること	保健・福祉サービスに関する人材を育成すること(保健師、介護職員など)	保健・福祉関係の相談を受ける窓口を充実させること	健康教育、健康相談、健康診査などの保健事業や医療体制を充実させること	世代間の交流・相互理解を促進すること	健康づくりを推進すること(健康教室の開催、スポーツ活動の促進など)	ボランティアの育成、NPOの支援など民間活動を支援すること	その他	特になし	無回答
全 体 (N= 552)	41.7	38.9	31.0	30.1	22.3	18.1	17.6	15.4	12.1	8.7	8.0	7.8	7.2	7.1	2.5	2.4	1.4	5.8
性・年代別																		
男性-40歳代 (n= 113)	41.6	34.5	29.2	26.5	21.2	15.9	15.9	10.6	10.6	5.3	6.2	9.7	5.3	3.5	0.9	3.5	8.8	
男性-50歳代 (n= 98)	36.7	45.9	34.7	30.6	19.4	12.2	15.3	20.4	7.1	7.1	11.2	6.1	8.2	6.1	3.1	0.0	1.0	8.2
男性-60歳代 (n= 81)	30.9	37.0	24.7	28.4	18.5	14.8	28.4	17.3	9.9	3.7	3.7	8.6	7.4	13.6	0.0	1.2	2.5	9.9
女性-40歳代 (n= 120)	48.3	44.2	31.7	35.0	20.8	21.7	18.3	10.8	15.0	6.7	6.7	8.3	7.5	7.5	0.8	3.3	0.8	1.7
女性-50歳代 (n= 96)	44.8	30.2	38.5	29.2	33.3	24.0	15.6	13.5	9.4	9.4	6.3	4.2	3.1	4.2	5.2	0.0	2.1	
女性-60歳代 (n= 42)	45.2	42.9	19.0	28.6	16.7	19.0	9.5	9.5	19.0	19.0	14.3	14.3	2.4	7.1	2.4	4.8	0.0	4.8